

C-2 ^{わさん}和算(日本のオリジナル数学)の魅力

<パズルを体験>

わたしたちが現在、学校で学んでいるのは、^{めいじいしん}明治維新後に西洋から入ってきた数学で、これを『洋算』と呼びます。

明治以前に、日本には数学文化がなかったのかというと、そうではありません。

日本の数学は、はじめは中国からの移入によるものであり、^{ばくまつ}幕末から明治以降にかけてはヨーロッパから伝わりました。しかし、この中間の江戸時代には、^{せきたかかず}関孝和らの努力によって「日本独自の数学」がヨーロッパの数学に^{ひつてき}匹敵するレベルにまで達していました。これを『和算(わさん)』と呼びます。

世界最高水^{すいじゆん}準にまで内容が高度になった一方で、^{ちてききょうみ}知的興味から、^{しょみん}庶民の生活の間にも幅^{しんどう}広く浸透しました。現在でも我々の生活の中に残っているものとしては、「九九」やソロバンなどがあります。当時、人々の間で行なわれていた各種^{すうがく}パズルや数学マジックをいくつか用意しました。体験してみましょう。

- (一) 目付字
- (二) ^{せいしょうなごん}清少納言の^{ちえ}智恵の板
- (三) あなたがすわる^{いす}椅子
- (四) カクテルカード など



<先人の知恵に挑戦>

日本には、^{えま}絵馬を神社に^{ほうのう}奉納する風^{ふうしゅう}習が古くからあります。数学の問題を解いた絵馬を『^{さんがく}算額』と言います。

江戸時代後半には全国で盛んに^{ほうのう}奉納されました。長野市の^{ぜんこうじ}善光寺はじめ身近な神社やお寺にも奉納され、今日まで残っている物もあります。

それをみると、現在のような^{すうしき}数式は一切ありません。すべて^{かんじ}漢字で書かれています。^{さんがく}算額の問題を写し取って印刷しましたので確かめてみて下さい。プリントは差し上げます。さあ、解いてみましょう。昔の人との知恵比べです。